

松戸市教育委員会会議録

令和元年10月定例会

松戸市教育委員会会議録

令和元年10月定例会

開 会	令和元年10月10日(木) 午前10時より	閉 会	令和元年10月10日(木) 11時00分	
署名委員	教育長 伊藤 純一	委 員	山田 達郎	
出席委員 氏 名	教育長 伊藤 純一	○	委 員 伊藤 誠	○
	教育長職務代理者 山田 達郎	○	委 員 武田 司	○
	委 員 市場 卓	○	委 員 山形 照恵	○
出席職員	内訳別紙のとおり			

提出議案	内訳別紙のとおり
特記事項	

教育委員会事務局出席職員一覧表

令和元年10月定例教育委員会

No.	部課名 及び 職制名	氏 名	No.	部課名 及び職制名	氏 名
1	生涯学習部 部長	片田 雅文	21		
2	生涯学習部 審議監	津川 正治	22		
3	学校教育部 部長	小澤 英明	23		
4	学校教育部 審議監	岡村 隆秀	24		
5	教育企画課 課長	菊地 治秀	25		
6	” 専門監	村上 陽子	26		
7	” 課長補佐	大西 真	27		
8	” 主査	永淵 智幸	28		
9	” 主任主事	島村 仁美	29		
10	” 主事	宮本 愛菜	30		
11	社会教育課 課長	井之浦 太郎	31		
12	” 主事	松木 貴裕	32		
13	博物館 次長	堤 和子	33		
14	学務課 課長	西郡 泰樹	34		
15	” 課長補佐	風戸 正	35		
16			36		
17			37		
18			38		
19			39		
20			40		

令和元年10月定例教育委員会会議次第

1 日 時 令和元年10月10日（木） 午前10時00分より

2 場 所 教育委員会5階会議室

3 議 題

(1) 議 案

(2) 報 告 等

4 その他

令和元年10月定例教育委員会会議 議題目次

(1) 議案

① 議案第24号

令和元年度末及び令和2年度

松戸市立高等学校職員人事異動方針並びに

令和元年度末及び令和2年度

松戸市立高等学校職員人事異動実施方策

の制定について

(学務課)

(2) 報告等

① 館蔵資料展「縄文貝塚 貝の花遺跡」の開催について (市立博物館)

② 2020年JALアートカレンダーへの掲載について (市立博物館)

教育長 傍聴についてご報告いたします。

本日の教育委員会会議に1名の方から傍聴したい旨の申し出があります。松戸市教育委員会傍聴人規則に基づき、これをお認めいたしますので、ご了承願います。

なお、これ以降傍聴の申し出がある場合は、事務局への受け付けをもって許可にかえることといたします。

それでは、傍聴人を入場させてください。

(傍聴人入室)

◎開 会

教育長 ただいまから令和元年10月定例教育委員会会議を開催いたします。

◎会議録署名委員の指名

教育長 開会に当たり、本日の会議録署名人を山田教育長職務代理者にお願いします。

◎議案の提出

教育長 それでは、日程に従い議事を進めます。

本日の議題は、議案1件、報告等2件となっております。

では、ここからの議事進行は山田教育長職務代理者にお願いします。

◎議案第24号

教育長職務代理者 それでは、日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

初めに、議案第24号「令和元年度末及び令和2年度松戸市立高等学校職員人事異動方針並びに令和元年度末及び令和2年度松戸市立高等学校職員人事異動実施方策の制定について」を議題といたします。

ご説明をお願いします。

学務課長、お願いします。

学務課長 おはようございます。

学務課長、西郡でございます。よろしくお願いたします。

議案第24号「令和元年度末及び令和2年度松戸市立高等学校職員異動方針、並びに令和元年度末及び令和2年度松戸市立高等学校職員人事異動実施方策の制定について」お願いたします。

本件につきましては、本来千葉県教育委員会制定の令和元年度末及び令和2年度公立学校職員人事異動方針と公立高等学校職員人事異動実施細目を受けて、本市の人事異動方針・実施方策を制定するべきものでございます。

しかしながら、今年度につきましても、過日、県の人事異動方針は示されたものの、まだ県の実施細目が示されておりません。例年の状況ですが、10月中旬ごろに示されており、それを待って本市の人事異動方針・実施方策を制定いたしますと、高校職員の異動希望調査票の提出締め切りが11月初旬となっており、日程的な余裕がなくなってしまいます。こうした事情により、例年同様に今年度も過日公表されました県教育委員会の人事異動方針を踏まえながら、昨年度制定された県教育委員会の人事異動方針と人事異動実施細目に準じて、本市の人事異動方針・実施方策を策定し、この10月の教育委員会定例会議に提案させていただきました。

さて、昨年度からの改正点やその趣旨については、お手元の資料6ページから8ページの新旧対照表と主な改正点と理由にお示ししてございます。

今回の主な改正は2点となります。

1点目ですが、県教育委員会の人事異動方針に準じた改正と、2点目が元号等の改正となっております。

それでは、人事異動方針の改正についてご説明いたします。

資料6ページ、人事異動方針の新旧対照表をご覧ください。

まず第1一般方針において、従前の項目1を1、2の2つの項目に分けて整理いたしました。

具体的には、項目1では内容を適材適所の人事異動の推進と職員構成の適正化に絞ってまとめました。また、項目2については、優れた人材の確保及び本市教育の進展に資する人材の育成に関する新たな項目として整理いたしました。これらは千葉県の人事異動方針に準じて改正したものでございます。その他につきましては元号等の改正となります。

次に人事異動方策の改正についてご説明いたします。

資料7ページにお示しいたしましたが、こちらにつきましては元号等の改正のみとなっております。

以上、市立高校の人事異動方針並びに人事異動実施方策についての説明といたします。

ご審議よろしく願います。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

議案第24号についてはただいまのご説明のとおりでございます。

これより質疑及び討論に入ります。

いかがでしょうか。

市場委員。

市場委員 2ページ目の第1一般方針の4ですけれども、障害のある職員については、障害の内容や程度に十分配慮しながら、積極的な配置に努めると、これは毎年書かれているものです。昨年の議事録を見ると、今のところ実際に市立の学校には障害のある方の職員はいないという回答でした。このことについては、市役所全体として配置の基準が決まっていて、市役所全体で満たすような努力をされているというようなご回答だったんですけれども、教育機関という立場からいうと、障害のある方を積極的に学校職員として登用するという態度はあっていいと思っているんですけれども、その辺についてのお考えはどうでしょうか。

学務課長 ただいまご指摘いただきました一般方針における障害のある職員についてでございますが、今ほど委員さんのお話しにございましたように、現状では、障害のある職員は市立高校にはおりませんが、お話しのとおり、市全体の流れの中でも、学校においてもそういう職員を採用していくと、職員を入れていくことは大変意味があるものだというふうに思っておりますので、今後につきましてはそういう状況に応じて対応ができればと考えております。

以上です。

市場委員 もちろんいろいろ難しいことがあることは容易に想像できますけれども、方針として書かれているものですし、ぜひ積極的にご検討いただきたいと思います。

教育長職務代理者 ほかにいかがでしょうか。

伊藤委員。

伊藤委員 今回の改正の一番目立つところでは、一般方針のひとつの文書で書かれていたのが、1と2と分けて書かれたということなんですけれども、文言はちょっとなかなか難しいんですけれども、ちょっと気になるのは、第1の一般方針の2に、本市教育の進展に資する人材

の育成を意図した人事というように今回はっきり書かれた背景というか、あるいはこれを踏まえて何か、こういうふうになんか施策を具体的に調べていくとか何か、これを盛り込まれたことによって何か新たな動きを考えておられるのかどうか、そんなようなことはあるんでしょうか。それとも単に県のほうで変えたので、単に変えたというか、むしろ県の意図のほうもわかれば教えていただきたいんですけども。

学務課長 今ございましたように、一般方針の中が2つに分かれたということですが、実は千葉県教育委員会のほうから出されている方針につきまして、実際には優れた人材を確保するというふうに書いてある前のところに、千葉県千葉市の教員育成指標というのがございまして、それに基づいた教員育成、あるいは研修体系を新たに昨年度から取り組んでいるところでございます。本市におきましては、千葉県の教員育成指標に基づいているものというふうな見当で考えているんですが、松戸市独自のものというのは持ってございませんので、そういうことを照らし合わせたところで、本市教育の発展に資するというようなところでの人材です。今、お話したような人材育成を考えていく点に踏まえてというふうなことでございます。

以上です。

教育長職務代理者 よろしいですか。

伊藤委員 はい。

教育長職務代理者 分けるということは基本的には重くなるといいますか、まとめるとすれば別項目だったものをまとめるのはどちらかというところとあれですが、分けたということは何らかそこに逆に意味を見出してやってほしいという意図があるのかなというふうに感じられるところでもありますので、なかなか人材の確保についてはどの業界も厳しい中で、特に市立高校の特殊性といいますか、県教委との関係がありますので、その中でよりよい本市教育というものを踏まえた何か方針をしっかりと出したことによって、逆に人材の確保もあるのかなと。何かそんなふうに読めます、伊藤委員も何かそういうご質問の背景かなと思ったんですけども、その他よろしいですか。

山形委員。

山形委員 山形です。

3ページのところにあります管理職への登用等について、変更点でなく、すみません、なんですけれども、実際に毎回いろいろな部分で女性の管理職を入れましょうという文言がいろいろなもの書かれてはいるとは思いますが、ここ数年来で女性の管理職の方が

市立高校でどんな割合で活躍しているかを教えていただきたいです。

学務課長 市立高校におきましては、平成28年度まで現在指導課長を務める吉野教頭が義務籍ですけれども、女性管理職としておりました。市全体においては、義務のほうでは、割合的には女性管理職が多い状況ではあると思うのですけれども、それを踏まえてまた今後考えていければと思っています。

教育長職務代理人 市場委員も。

市場委員 ちょっとこれと直接関係しないかもしれませんが、以前中学校の先生のお話になったときに、免許外教科担任というお話がありました。市立高校でもそういうことというのは、あり得るのか、現実として今あるのかどうか、お伺いしたいと思っております。

学務課長 市立高校につきましては、免許外教科担任というのはない状況でございます。以上です。

市場委員 それは高校は一般にないというようなことが多いんですか。

学務課長 そうでございます。

教育長職務代理人 他よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

教育長職務代理人 ないようでございますので、これをもちまして、質疑及び討論は終結いたします。

これより議案第24号を採決します。

議案第24号については、原案どおり決定することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長職務代理人 異議がないものと認め、議案第24号は原案どおり決定いたしました。

◎報告等

教育長職務代理人 次に、報告等です。

それでは、「縄文貝塚貝の花遺跡の開催について」でございます。

博物館次長、お願いいたします。

博物館次長 博物館次長、堤でございます。

この度開催されます松戸市立博物館秋の館蔵資料展「縄文貝塚貝の花遺跡」開催についてご報告申し上げます。

貝の花遺跡は、日本で初めて縄文時代の集落跡の全貌が明らかになった遺跡として学術的にも大変重要な遺跡とされ、現在でも日本史の高校の日本史の教科書にも40年近く掲載されているような遺跡でございます。

また、最近貝の花遺跡では、塩づくりが行われていたこと、石器に使われた石の産地が多摩川、利根川、渡良瀬川、鬼怒川などの河原であったことなどの新しい発見がございました。それらを踏まえまして159点の資料を展示して、貝の花遺跡の貴重さと新たな発見による遺跡の姿を紹介した展覧会となっております。会期は10月5日から11月24日日曜日まで、観覧は無料でございます。会場は松戸市立博物館企画展示室となっております。また、同時開催といたしまして、千葉県公益財団法人出土遺物公開事業といたしまして、e c o生活事始めという企画展も開催しておりますので、ぜひご観覧ください。

以上でございます。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

確認ですけれども、同時開催のほうは公益財団法人の出土遺物公開事業という財団法人があるということですか。

博物館次長 千葉県教育振興財団の公益財団法人出土遺物公開事業です。公益財団の名前自体は千葉県教育振興財団でございます。

教育長職務代理者 千葉県教育振興財団が出土遺物の公開事業をやりますということですね。

e c o生活事始め、縄文時代は最近非常にファンがまた拡大しているというお話も聞きます。

何か質問、この機会にありますか。

山形委員。

山形委員 山形です。

10月22日お休みというのが子供たち、小・中学生の方に無料公開で見られますというのを広く知っていただけたら、平日の真ん中にぽんと急なお休みなので、どう過ごそうかと悩んでいる方もいらっしゃると思うので、無料で戸定邸に行けますとかというのが広報されるとよりいいと思いました。

意見でした。

教育長職務代理者 そうですね。ちょっと別立てでまたそのご説明も社会教育課長からあるかと思っておりますので、ちょっと改めてその点確認しましょう。

武田委員。

武田委員 これとは直接関係ないんですけども、この間の企画展のときも縄文式土器が展示されていて制作体験とか模型パズルなどがありましたが、来館者の方の状況はどういう感じだったか教えていただきたいです。

博物館次長 前回の子供ミュージアムはとても好評でございまして、子供をターゲットとした企画展は開館26年たって初めて開催いたしました。今まで大体高齢の男性がお客さんがほとんどだったんですけども、今回の企画展は多分感覚でいうと95%以上が子育て家庭、小さいお子さんから小学生、中学生、高校生もちょっとですが、いらしていただいて、5,000人を超える観覧者を得ました。新しい松戸市立博物館、初めて来られたという方が多く、とても新しいお客様に来ていただいて認知度がアップしたと思います。また市外からもネットによる検索で、夏休み中であつたので、どこに行こうかなということ、県内、市外からの、船橋、柏、もっと遠くからいらっしゃる方も多かったです。

以上でございます。

武田委員 先ほど山田委員もおっしゃっていたように、縄文文化はすごく今人気があるので、せっかくこういういい資料がいっぱいある松戸市が、いかにこれらをうまく活用して魅力をアピールできるか、チャンスじゃないかと思って私は楽しみにしております。

よろしくをお願いします。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

それでは、続きまして、JALのカレンダーに行きますか。

博物館次長。

博物館次長 博物館次長です。

今、お話しいただきました縄文の松戸市の宝でございます、幸田貝塚出土品の重要文化財が2020年度版のJALアートカレンダーに掲載されることとなりました。掲載されて販売されている状況でございますが、JALアートカレンダーについてちょっとご説明させていただきますと、日本航空が作成いたしました絵画、彫刻、陶芸、漆器を初めとする国宝や重要文化財が掲載されたカレンダーで日本語版が7万7,500部、海外版が1万2,400部が販売されます。その中で松戸市立博物館と松戸市観光協会のほうでも販売を開始いたしました。価格は1,980円でございます。

幸田貝塚の出土品について少し説明させていただきます。

市の最北部の幸田貝塚は、約6,000年前の縄文時代前期では全国的にも珍しい150件以上の住居が確認される大規模な集落遺跡として、土器を中心に多数の資料が出土されております。

掲載されている土器につきましては、波を打つような口片、こういう形と、あと注ぎ口を持つ形、また全面に細やかな縄文を、縄の模様です、つけるなど、優雅で大胆なデザインをしております。1998年にはパリの文化会館で行われた縄文展や2018年、昨年の東京国立博物館の縄文美の鼓動展にも出品されるなど、学術的のみならず芸術的にも優れた美術品として今回掲載されることとなりました。掲載のカレンダーには、雪舟や丸山応挙などの日本を代表するような美術品と一緒に掲載されているところでございます。

よろしく願いいたします。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

すばらしい評価をされているという意味でそういうものがある。ここのJALのカレンダーの中の説明にも所蔵等について載るんですね。ここの記載について載っているということであろうと思います。

この点はこの点といたしまして、JALアートカレンダーに掲載されるというご報告でございました。

特にご質問よろしいでしょうか。

続きまして、報告のその他の報告としてまたいろいろとさせていただきたいと思います。

予定議題としての報告は以上でございます。

◎その他

教育長職務代理者 それでは、その他に移ります。

事務局より、まず社会教育課長より即位礼正殿の儀に伴う説明ということでございます。

よろしく申し上げます。

社会教育課長。

社会教育課長 よろしく願いいたします。

お手元に配付してございます報告資料、即位礼正殿の儀に伴う無料公開の実施についてという資料をごらんください。

即位礼正殿の儀に伴います無料公開の実施についてご案内をさせていただきます。

お手元の配布資料のとおり、令和元年10月22日に新天皇陛下の即位礼正殿の儀が挙行されることに伴いまして、文化庁より県を通じまして、慶祝事業の一環といたしまして、国立の博物館及び美術館が無料公開となりますというこの通知がございました。また、各管内の

公立博物館をあわせて無料公開をしていただくようにという依頼文が来てございます。そこで、本市教育委員会といたしましても、慶祝の意を表し、博物館、戸定邸、戸定歴史館を終日無料公開する予定でございます。

なお、開館時間につきましては、9時30分から17時といたします。

教育長職務代理者 博物館は常設展示という、先ほどご報告のあったこれも結局観覧無料ですから、同じようなことですね。拝見できるということで、その広報をぜひというのが山形委員のご意見でございましたので、どのように広報されるかを確認しますか。

では、山形委員。

山形委員 山形です。

学校の先生たちがきっと子どもたちに実際ホームルームなどで、お知らせすると思いますが、子どもさんが帰って、それを保護者に美術館が無料などなかなか話を上手にできる子というのは少ないような気がします。メールが各学校にあると思うので、例えばそういうものにURLを張りつけてご案内をするなどの工夫があるとありがたいです。一保護者として学校からもらったお手紙すら読まずにカバンの隅にぐちゃぐちゃになって、出したくても出せないというケースもあります。デジタルの時代にもなってますので、ぜひそういうようなデジタルツールで保護者に広く伝える広報もお願いします。ホームページ見てくださいと言っても、ホームページに飛ぶよりも、自分の悩みのサイトに飛ぶ方がほとんどな現状です。学校から来たメールの中にご案内があると、URLをつけるのは無理だとしても、博物館や戸定邸が無料で観覧できますというような形のご案内が各学校の考え方等もあるとは思いますが、もしよければしていただけると、そのようなことに関心のない保護者さんにも届くと思うので、よろしく願いますというところです。

教育長職務代理者 一つの記念すべき日の過ごし方としての提示、これだけを言うということのバランス感もちょっと一方であるのかなと思いつつ、ただ国を挙げてお祝いする中でそういうものに触れる、すばらしい1日が、国立の施設も全部やっているので、ということはどういうことになるのやらという感じがいたしますけれども、松戸市もその中で無料で観覧できるということですので、何らかの形で行き届く広報をというご意見だったと思います。何か工夫できることがあればよろしく願いたい。

事務局からそのほかはよろしいでしょうか。

そうすると、委員の皆さんからのご報告にまいりたいと思いますが、幾つか出していただいています、どうでしょうか。学校訪問から行きましょか、お1人ずつだだとやると

かなりになるので、学校訪問が、山形委員と伊藤委員もあります。紙で出していただきました。その後、ごめんなさい、特別支援学級の学年発表会を先にやってそれから学校訪問、その後第1ブロックの研修会が出ておりますのでそれについて、順番でまいりたいと思います。

それでは、山形委員から特別支援学級学芸発表会、9月28日の件について。

山形委員 山形です。

9月28日の土曜日、特別支援学級の学芸発表会に参加させていただきました。初めて見せていただいて、お子様たちの一生懸命頑張る姿を目の前で見られたのと、保護者の方の笑顔がたくさん見られてすばらしい1日となりました。例年2月に開催されていて、準備が間に合わない部分の学校が何校かありということで、全部の学級を持たれている学校ではないというお話を聞きました。たまたま会場の関係で今年は10月ということでしたが、2月はインフルエンザ等がはやる時期なので、開催の時期というのもいろいろ考えていく時代になったのかなと思いました。充実した様子が見られました。

これは、この学芸発表会とは別件ですが、学校教育で使われる公民館、合唱コンクール等、市民会館や文化ホールと学校との連携がもう少しできていただけたらありがたいと思います。全ての市民の方が平等に、ホールや市民会館を使えるために抽せん式で行われていると思うんですが、学校施設において、大規模な学校については、市民会館での合唱コンクールと文化ホール、森のホールで行う合唱コンクールでは随分と配慮の部分や先生たちが保護者の人数制限、児童の人数制限などもあり、かなり負担が大きいのではないかと考えています。10月に合唱コンクールを開催したいと思っても、もう数日しか残っていかず、どうするか、学校で開催するか、それこそ合唱コンクールの有無もこれからの教育現場としては考えていかなければいけないものではあるんですけども、大きな学校については配慮をする。または、大きな学校に限らず、ホールと教育現場の連携が、それを先生が奔走するのではなくて、それをコーディネートする方とか、配慮する方がもし配置されていたら、学校の多忙化、これも小さなものかもしれませんが、少しでも多忙化の改正にもなるのかなと思いました。いろいろな保護者の方からのお話も聞いての意見です。

教育長職務代理者 ちょっとそれはあれですか。学校は優先的に、押さえるときは押さえていると思いますが。

学校教育部長 押さえてはあります。ただ、全部が全部、ある程度の枠の中で、校数の中で割り振られているのではないかと思います。

山形委員 本年度はよかったけれども、来年度は抽せんというような話も何か所か聞いたので、

完全に学校が優先で確保できるということではないんだという部分で私も驚いた部分があったので、特に600人とか700人とかいる学校は森のホールでないとという部分はあるのかと思いつつながら、合唱コンクール自体の開催についてもこれから形も変わっていくと思いますが、連携がとれる、決まった枠のそれ以外のもの、吹奏楽部なども、優先的に使ったりとかもするかもしれないのですが、保護者の声が聞こえていたので、書かせていただきました。

教育長職務代理者 それでは、学校訪問について。

山形委員 学校訪問について、10月2日に金ヶ作中学校を訪問させていただきました。

生徒数が223名で、通常クラスが各学年2クラス、特別支援のクラスが全学年で5クラスという形の編制でした。中学校というのは、私はもう500人以上の大きなイメージという感じだったんですけども、この少人数の落ちついた金ヶ作中学校がいいと希望される児童保護者の方もいらっしゃるというお話を聞きました。こちらの学校に限らずですが、不登校やいろいろな配慮が必要な児童さんがいらっしゃる現状の中で、金ヶ作中学校はスクールソーシャルワーカーが活躍をして、職員の方の負担も軽減されているのと、保護者からも好評な声が聞こえているというお話も聞くことができました。

保護者の方が多忙な方が多くて協力を得られないというお話はあったんですが、地域の応援や交流が盛んというお話を伺うことができました。事業で防災ゲームについてのワークを学活でされていたのがとても印象的で、台風も来たりしますので、そういう防災の観点はときおり授業の中で取り組んでいただけたらと思います。

英語授業はデジタル教材を使う、英語など、全てのことにおいて、デジタル教材を生かした授業は先生の負担を減らすんじゃないかというシーンも何点かありました。

ユニバーサルデザイン、特別支援学級のお子さんが多い部分もありますし、通常級であれ配慮するお子さんもいますし、特別支援の子だけではなく、多くのお子さんにユニバーサルデザインを意識した環境づくりというところはとても大切だと思って、観させていただきました。黒板周りが本当にすっきりしていて、学級目標だとか、時間割等は何も張ってなく、すっきりとさせた一貫性がありました。全てすっきりしたわけではなく、階段の踊り場に新聞を置いて、子供たちが主体的に見て、気づきを書くこととか、階段に美術作品の掲示をするなど、工夫もされていました。

校長先生が家族のように職員を大切にしたいという言葉聞いて、これからも引き続き温かいご指導と教育活動をしていただきたいと思います。スクールソーシャルワーカーとの連携がうまくいくケースばかりで多分はないと思います。また、現状スクールカウンセラーの

方に相談したいとなっても学校を通して相談する。スクールソーシャルワーカーの方もお手紙をいただいたので、研究所に直接ということもできるんですが、そういうものを通さなくてもご相談できるような場所がもっと気楽に相談できる場所がもっと多くなるといいかなと思いました。金ヶ作中学校は全体はとても落ちついた雰囲気ですてきな学校でした。

以上です。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

続きまして、伊藤委員から学校訪問の報告を。

伊藤委員 私の場合は、1枚にまとめてありますけれども、夏休み以降、大橋小学校と昨日だったんですけども、小金北中学校を訪問させていただきました。

まず、大橋小学校については、生徒数が254名、小規模校ということです。学力等の調査結果で国語、算数が全国平均を若干下回っているので、学力向上に向けてのいろいろな取り組み、特に放課後の補習であるとか、あるいはそれ以外の短い時間を使ったいろいろな算数等の勉強も行われているということです、その成果を期待したいと思っております。

それから、学校の敷地内で二十世紀梨を育てる活動が行われていて、3年生がお世話を伝統的にするようなんですけれども、今年も9月に収穫祭をやったということでした。松戸市がドミニカ共和国に梨の苗木を贈って現在育てるといような交流を行っているということもあり、その関連で大橋小学校がドミニカ共和国との交流をやり始めているようですし、そうした松戸市の動きが活発になれば、この大橋小学校のこともさらに注目されていくのではないかというふうに思われますので、そうした活動を引き続きやっていただきたいなというふうに思いました。

それから、小金北中学校は生徒数361名で、小規模ではないんですけども、もちろん大規模ではないという、ちょうどその中間かなというふうに思います。小金北中学校は松戸版のコミュニティースクールという地域連携組織ができているのが特徴で、実際に具体的活動をして保護者や地域の人たちを講師に招いて世代交流会という催しを行っているということでした。つい最近も9月7日に行われたということで、水墨画、茶道、竹細工といったいろいろな文化的な催しや、あるいはスポーツも含めて、全部で30もの講座をやって、全生徒がそのどれかに参加するということでした。学校内の教室や講堂を使うものや、例えば硬式テニスやボーリングやカヌーなんかも外でやるということで、そういう地域の人たちとの交流が1日ばかりで活発に行われていることで、その地域のイベントスタッフバンクに登録をされている方とか、あるいは教職員の熱意と協力がなければ実現できないことですが、今後も

可能な限り継続されていくことが望ましいというふうに思いました。

そのときに思ったんですけれども、子供たちにとっては例えば親の職業とか、あるいは親戚の人の職業とかはその実態を知ることができますが、それ以外はなかなか職業体験の話を聞くということができないので、こういった地域の方との交流の機会や、あるいは別の機会でもいいんですが、何かそういう人たちの話を1時間でも2時間でも聞くことができれば、子供たちがそういった職業に対する知識を深めて、自分の将来を考える一つの参考になるのかなというように思いますので、そういったことが行われればいいのかなというふうに思いました。

それから、授業視察で、現在学校の多くの教科でやっているように、生徒たちが4人とか5人、あるいは3人というような小グループに分かれて意見交換するということが今回も見受けられましたが、どうも数学のように、はっきりとした解を求めるような教科では、わからない生徒というのは、同じグループの生徒から説明を聞いても、私もちょうど目撃したんですけれども、何度聞いても、やっぱりわからないと言って、困ったような顔をしており、教科によってはなかなか限界があるのかなと思いました。社会とか国語といった教科については、自分の考え方をもち、発表力を高めるとか、いろいろな人に対して意見を言うという力をつけるということで、非常にいいことだと思うし、どんどん広げていただきたいと思うんですけれども、ちょっと教科によっては難しいものもあるのかなというのを視察しながら感じました。

以上です。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

ほか学校訪問行かれた方は、今のところいいですか。今も継続中だと思います。

では、お願いします。

それでは、続きまして、あとは紙で出ているのは、第1ブロックの市町村教育委員会研究協議会ですね。これは今週の月火とあったものですが、その報告かと思います。

山形委員、それではお願いしていいですか。

山形委員 じゃ、ちょっと多くなりますが。

教育長職務代理者 かいつまんで、お願いします。

山形委員 行政説明で文部科学省の方から説明がありました。

今の検討していることと、課題について、新しい時代を見据えた教育と将来像の方向性で、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、個別最適化、自立と多様性という言葉がと

でも印象的だったのと、S o c i e t y 5.0についてのお話がありました。基調講演の堀田先生がS o c i e t y 5.0の動画を見せてくださったんですけれども、その部分にQRコードで下のほうに張っておりますので、お時間あるときにごらんになっていただけたらと思います。文部科学省も遠隔教育、ICTの導入と小学校の教科担任かなど、多様な大きな変化を取り入れていく動きの説明をしてくださいました。

印象的なところで言うと、働き方改革よりも、私は給食費の公会計化について、もう実際に児童手当を学校の給食費に充てている自治体があったりとか、いろいろな部分で先生の多様化の部分で、給食費などを市のほうで管理するというような動きがあったりとか、督促状を弁護士事務所に依頼するなど、大きく先生たちの負担が減るような動きがあるというのを改めて知りました。話題にもなっている夏休み前に仕事をして、働いた分夏休みをしっかりと取りましょうということに関して、過労になるんじゃないかというような動きもニュースでも流れていますが、ここは夏休み前に無理をした働き方にならないように配慮していただきたいと思いました。

いじめと不登校の問題についても、いじめの認知が大きくなったので、早目に対応すること、SNSをこれからもっと活用していくというお話を聞きました。当事者の声をもっと多く聞かれるようになるといいなと思いました。国の財政的には公的な支援の中で設備への予算はどんどん減っているというような話も聞くことができました。

超スマート社会で必要となる資質、能力向上の育成というところを、東北大学の堀田龍也先生がお話をしてくださいました。超スマート社会というところで、スマートフォンがこれだけ普及している中で、お金でお支払いするというのもだんだんなくなっていく、どんどんスマートになっていくというのを、動画を見ながらお話を聞かせていただきました。

現状、教科書は紙ですというところから、これからどのようにしていくか、新しい学習指導要領というところには、資質能力という言葉で学力という言葉がないということが印象的です。①生きて働く知識、技能の習得、②未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養というところです。これは、今2020年から動いていく指導要領のところですがけれども、これをICTを活用してというところで、熊本市の実践の動画を見せていただきました。これもQRコードをつけさせていただきました。これから③の近未来、W i - F i と A I とクラウドを使ったどんどんICT化していったって、そのテクノロジーを上手に使って教育を伸ばしていくというような実践的な未来の話聞くことができました。

それにつながって、③のパネルディスカッションで実践的につくば市の教育委員会の実践は本当にすばらしく、昭和50年からもう始められているというところでした。

次のページにいけます。

一番驚いたのは、つくば教育クラウドという、URLでぜひごらんになっていただけたらと思うんですが、在宅でも勉強ができる環境とそれを評価することができるシステムが既にあるというところなんです。これには不登校で学校に行けない子の学びにもつながりますし、ほかにも体調を崩したお子さんだとか、いろいろなお子さんのリカバリーになるのと、一人一人のやった実践がデータ化されて、目で見えていくというのも、例えば宿題をどれだけやったから、これだけわかったというのはとてもわかりづらかったりするんですけども、これだと本当にデータ化して、AIが判断してくれて、その部分で先生たちの多忙化も削減されるのではないかと思いました。

それと、氷見市の実践の部分でICTを導入しているという話を聞かせていただきました。

全体のお話を通して、ICTの必要性和予測不能な未来において、どんな考えを持っているか、これから生きていく子供たちに本当に必要な力を育てる必要性を強く感じるお話しでした。つくばクラウドシステムについて、全ての子供ができれば、日本も持続可能性に一步近づけるように思いました。現在学校に行きたくても行けない子供たちの学習サポートシステムも含めて、全て取り入れられている現状を考えて、Wi-Fiの環境設備とクラウドシステムの安全性の情報管理が強く必要だと思います。数年後にはランドセルではなく、iPadが入学の準備品になる日も近いのではないかなと感じる、全体を通してのお話しでした。

そして、富山県民会館の美術館を見せていただきました。全体の大きなフロアでの展示はなかったんですけども、外の文化ホールのような形で市民の方がギャラリーで展示をされていたのと、富山の文化工芸の作家さんたちがつくられているものが素敵に掲示されていました。また、町並みがとても美しく、町にモニュメントやデザイン性が感じられるロゴやポスターがたくさんあって、本当に素敵な町だなと思いました。

最後になります。富山県美術館を見せていただきました。外観から美しく足を運びたい場所です。周辺の公園等の景観の美しさは全国から人を引き寄せるのではないか、全世界からと言ってもいいぐらい美しい景観でした。その中で武田委員に教えていただいたお子さん向けのスペースがあるということで、そこを夜遅かったので、暗くて子供さんももういらっしゃらないんですけども、とても考えられたスペースだったのと、あと屋上にある

きのこのマークのオノマトペとつながっている美術品でもあり、少し遊具的なもので、触れて遊んで、触れて大人が見ても楽しいですし、こういうものを見ながら自然とアートと触れる自然と触れる、そういう親子の配慮がたくさんされていました。この一番右端にある靴のシールなんかは、靴を脱いでと言わなくても、脱げるようなマークとそしてそろえるマークと、あとその奥にもお子さんとお母様たちが休めるようなスペースなどもつくられていました。

長くなってすみません。以上です。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

続きまして、伊藤委員。

伊藤委員 私もちよっと1枚に全部まとめてしまったので、簡単なんですけれども、基調講演については、今山形委員のほうからかなり詳しいお話がありましたので、基本的には省略しますが、ICT化というのはもう世の流れで、特に学校現場がおくれているという問題意識で数年前からどんどんそれを取り入れているんですけれども、依然として自治体間の格差があるということで、千葉県も今の時点ではちょっと低い段階にあるので、これからもこれについて力を入れていただきたいというふうに思いました。

それから、翌日分科会があったんですが、そこで地域と連携したキャリア教育ということで、秋田県の大館市と富山県の高岡市から実践例が照会されました。いずれも自治体として、人口減少問題を抱えていて、特に若者の流出に伴う人口減ということで、それを何とか食い止めるために、教育がその役割を果たさなければいけないということで、教育でふるさとキャリア教育をどんどん進めていきたいということでした。しかし、単なるキャリア教育では、それがどんどん進めば進むほど、若者は大都市へ流出するので、いわゆるキャリア教育でもふるさとキャリア教育を進めたいということで、地場産業とか、地元のいろいろな産業界と協力をした取り組みが、中学生が中心となってやれるような形でなされていて、その幾つかの紹介がありました。特にその結果、大館市などは高卒就職者のうち地元の企業、地元就職をする希望者が8年か9年ぐらい前と比べて20%ふえて、現在70%になっているということで、さらにそれをふやしていきたいということも言っていました。またその観点から、大館市が進めているふるさとキャリア教育を視察するための全国からの教育ツーリズムもふえているというような話もありました。

ちよっと、なかなかこういうのは、置かれた状況が松戸とかなり違うので、即そのまま参考になることではないかもしれませんが、ただ、キャリア教育ということに関しては、中学

生レベルですと、中学生の時点では将来のキャリアを決めることはできないと思うんですが、中学生に対していろいろなキャリアのインプットをどんどんして選択の幅を広げさせるということは非常に大事なことだと思いますので、そうした教育で先ほどちょっとお話ししたような、小金北中学校が進めているような地域との連携というようなことも視野に入れながら取り組むことは、松戸でも十分参考になることかなというふうに思いました。

以上です。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

私も最後に少しだけ、もう最初から山形委員が詳細に報告していただけることを期待して、さぼった報告書で恐縮です。本当に私見ばかり書いています。

私の1枚です。

最初に参加者数、これは行ったときに、山形委員ともお話ししていたんですが、少なかったです、ことしは263名ということで、昨年の名簿を見ると350名いました、山形で開催された。少ないという印象です。千葉県内も野田は教育長さん、お見えになっていましたけれども、それ以外は、東葛地区はあといなかったかな。市川ぐらいでしたか、あとは千葉も1人か2人です。

こういう情報収集に向かう姿勢というものを私たちの教育委員会では大事にしているということは、何か、ほかがちゃんとどうして来ないのかというところは、逆にちょっと非常に不思議な感じがしたという感想があります。

それから、次のくだりは私はどちらかというところ、この上3行に書いてあるように、いまだにまだええっと思うような、ただ、これがその先書いてあるとおりの、子供たちはもう否応なくその中にいるし、逆にその中のリズムで生きていく。これから生きていく。ここに対して、ええっという私のような理屈で機器の整備とか何とかがおくれてはならないということ、どうも東北大学の先生が非常に力説をされていたというように思います。どこを本質と見きわめてやっていくかというところの中で、少なくとも立ちおくれしないでやっていく必要があるという感想は改めて確認をしたということでもあります。

キャリア教育のところは下半分のところですが、これもやはり地域性が違うというのは伊藤委員もご報告のとおりです。まったく違います。

4行目に書いてあるとおりの、PTAの委員会が職業体験する事業所を用意するというんです。要はPTAの、つまり私たち、先生も入っているんでしょうが、そういうネットワークを使ってそういうところを準備できるだけの地域のつながりがあるという裏返しかなと思いま

す。商工会議所なんかと一緒にやるということも、あえてちょっと質問なんかしたら、そういう話もほかからも意見が出ましたが、松戸も法人会が協力してやっていただいているんですけども、何でしょうか、向こうの地域社会での職業の幅と、このエリアで親たちだけを見ても職業の幅というものは明らかに違うし、多様性と言ったらもしかしたらこっちのほうが本当はあるのではないかと思うので、それをどう結びつけるかということは向こうのほうがうらやましいと思って帰ってきたんですが、これを書きながら、どちらかというところ、こちらのほうが工夫次第でもっとできることがあるんじゃないかと。教育上の必要があるのであれば、さらに多様な職種を子供たちに紹介するすべというのは、工夫次第であるんじゃないかということを感じた次第であります。

これはもう市を挙げてやるべきであるし、もしかしたら近隣市と挙げて一緒になってやるようなことかもしれません。ちょっと実はきのう、今度お見えになる、職業体験で内に1人お見えになるんですが、先生がわざわざ挨拶に来られて、予定表持ってきて、よろしくお願ひしますと、すみません、30分おくれましてと、もう汗をかきかき、多分事業所回っていると、これはどうにかならないのかなということを感じているところでもあります。

最後に、富山の町の中の美術館等拝見して感想です。富山全体がデザインというものに非常に自負を持って表現していますし、地域の方々も伝統産業の世界から今に至るまで、それをやっているという意味では自負を持っている。こういう地域はおもしろい、強いということを感じました。

そして市立図書館と市立美術館は、美術館がガラスですから、非常に特徴的な美術館でもありますし、外国人の方もお見えになっておられましたし、それが階を分けずに、いろいろな階に美術館と図書館がフロアが併設されていて、両方行き来できるという環境づくりというのは非常におもしろいコンセプトであろうかなと思いました。

そんなことを感じた次第です。

一応そんなところで、紙で出ているものは以上です。

武田委員、市場委員はよろしいですか。

(「はい」の声あり)

教育長職務代理者 それでは、委員からの報告は長くなりましたが、以上でございます。

ほかよろしいですか。

(「なし」の声あり)

教育長職務代理者 それでは、議事進行、教育長にお戻しいたします。

でも、教育長も第1ブロック行かれているのに、全くご指名を申し上げないで、失礼をいたしました。

コメントをぜひいただければ。

教育長 実は次の日の分科会で私はICTに大西さんと一緒に出ていたんですが、グループつくってみんなで話し合う時間があったんです。後ろが越前市と高岡市で、4人とも共通していたというか、ある意味標準レベルが大体わかったのは、各市で1つの学校当たり、大体40台ぐらいを基準として配布しているなということです。ですから松戸市は標準には行っているという気がしました。むしろつくば市さんからも実はうちも配布は少ないんです、という話がありました。大都市になればなるほど負担が大きいので、なかなか配布数は多くはなれないという共通の悩みがわかりました。

越前市の教育長さんが実は中学校の技術科出身の方で、むしろICTはプロで、あの方が「何で30年前にやったことを今やっているのかと僕は疑問に感じています」と言っていました。プログラミング教育、論理的思考力なら別の方法、各教科でも十分やっているからというふうに、昨日も小金北中で技術科の中で、昔ふうに言うとプログラムというかインプットして自動車を動かす、今ふうに言うとロボットをプログラムするという言い方の授業をしていました。子供たちのほうが私たちよりはるかに順応しているというか、上手にいろいろな工夫をしながらやっていたんですが、そんなにしゃかりきになってプログラミング教育をやる必要があるのかなというのは、実は4人とも共通した感覚でした、それは、その辺が文部科学省とのギャップが結構あるというふうに実は感じてというか、安心して帰ってきました。

先ほど、皆さんの意見の中で、例えば、実は職業体験は小金北中は世代交流会の方々準備します。ですので、ものすごくいろいろな働きをしてくださる。ですからコミュニティースクールにふさわしい学校だと思ってお願いしているんですけども、そういうふうに松戸市の中でも保護者がそういう職業体験に協力してくださっている学校もあります。なかなか逆に難しい学校もありますけれども。

それと、出てきた公会計化については、実は前の議会で答弁したんですけども、準備を始めているところです。松戸市も、この大きさからすごい大変ですけども、そういういろいろなことが、皆さんから出たご意見の中にもありましたので、お応えしたいと思いました。

お疲れさまでございました。

教育長職務代理者 ありがとうございます。

私もこの中で書いて、飛ばしましたけれども、プログラミング教育ということと、何かコ

ンピューターを整備しましょうというのが何かごっちゃになっていて、プログラミング教育というものを本質的にどう見ているのかというのが何か深まっていないような感は、相変わらずこれは疑問が残るといふようなところは私も感じたところでもありました。これらについては教育課程の中で出てきますから、これは現場ではぜひどのようなことになるか、各学校の先生方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

すみません。それでは教育長、引き続きお願ひします。

教育長 それでは、次回の教育委員会会議の日程について、事務局からお願ひします。

教育企画課長 令和元年11月定例会でございますが、11月14日の木曜日午前10時から、こちら5階会議室で開催されてはいかがでしょうか。

教育長 よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

教育長 それでは、確認いたします。

令和元年11月定例教育委員会会議は、令和元年11月14日木曜日、午前10時より、教育委員会5階会議室にて開催いたします。

◎閉 会

教育長 以上をもちまして、令和元年10月定例教育委員会会議を閉会いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会 午前11時00分

この会議録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育委員会教育長

松戸市教育委員会委員